



サッカーは  
少年を大人にし  
大人を紳士にする  
(デットマール・クラマー)

草の根サッカー支援 あさ風  
2020年3月ハーフタイム  
2020年3月8 日発行

## 令和のシニアサッカーのゆくへ？

新型コロナウイルスの感染拡大で、日本サッカー協会（JFA）も感染流行の早期終息を目指す政府の新たな方針に全面的に協力することとし、2月26日から3月15日までの間、JFA主催のすべての会議・イベント等についてそれぞれの開催の必要性を慎重に再検討した上で、原則として延期・中止することとしました。Jリーグは開幕戦から試合は延期。シニアの大会でも、3月14日～15日に予定されていた家康公記念杯第17回清水スーパーシニアサッカー大会も中止になりました。新年度の始まりに様々な影響がでているようです。

でしょうか。無駄のないスマートな大会運営で、試合の進行には余裕があり、スムーズなところがよかったです。



宮城フェニックス0-65のみなさん

この直前に2月8日・9日に千葉市蘇我のフクダ電子アリーナフィールド・スクエアで、第2回千葉市マスターズが開催されました。昨年も特集しましたが、特定非営利法人ACちば（以下ACちば）のみなさんが、千葉市高齢者福祉課に足を運んだ結果、「ピッチの確保についても、サッカー協会やJリーグ等の優先順位により運営されている中、特に今回は市役所の高齢福祉課のご理解により、シニアの健康増進、生き甲斐作りに貢献する事を目的に、優先的に確保して頂きました。」ということでした。今年は0-65と0-70の大会で 0-65が13チーム、0-70が8チーム（AC千葉レディースを含む）で、関東のチームのほかに 0-65は宮城フェニックス65（宮城県）清水クラブOB65（静岡県）、山梨シニア65（山梨県）が参加でした。また、広島名門高校OBからなる広島65も参加のオープンな大会でした。「ACちば」は関東では少ないNPO法人です。その定款の事業に基づいて運営されているのもこの大会ではない

さて、この大会に水戸・古河のチームで参加しておられた、LAZOS KOGA FC（古河壮年サッカー同好会）で古河サッカー協会の方とお話できました。今年で第30回を迎える古河マスターズは、40代、50代の参加の多い大会で、近隣の学校の父兄や会社の仲間のサッカーチームも多く参加しています。自分たちのサッカーを自由に楽しめるのが魅力のようです。若い世代が楽しめるサッカー大会として貴重な大会です

4年前くらいですが、千葉のパブのマスター（30代）が、ロンドンでの話をしていました。「夜、パブでサッカーの話で盛り上がり、翌日は近くの公園でパブ同士の仲間がサッカーを楽しむことがあったんですよ。日常の中に、自然にサッカーがありましたね」と。知人の40代の会社員の方は、出張が多く、会社の社会人のサッカーチームは入れませんので、ボールが蹴れるの

は子供と河川敷の隅くらいですね」と話していました。

今、例えば神奈川県シニアリーグでは0-40は48チーム（4部）、1206人とかなりの人数になっています。

これは各地域でも同じ傾向のようです。40代のチームは、50代のチームの倍近いチーム数です。前述神奈川のリーグ戦の使用グラウンドは年々増えています。早くからグラウンドを確保していた（会社関係を利用など）チームでも、グラウンド使用が難しくなっています。若い世代のサッカー人口の増加は喜ばしいことですが、エンジョイ志向とチャレンジ志向の共存する中で、チームの在り方は難しい局面があるようです。2020年度の取材の課題として各地域、チームの練習状況等をお伝えしたいと思います。



首都圏では、練習グラウンドは、最寄り駅から15分も歩けば行くことができたり、バスの便もあるようですが、地方になりますと車がないと練習に行けないのが現状のようです。そのような理由で、80代の方が、少しずつ練習会への参加が少なくなる傾向にあるようです。お聞きすると「以前参加していた回数の3分の1くらいになるなあ」という方がいらっしゃいました。やはり、車の運転の問題が大きいようです。地方では、県で1か所の練習グラウンドとなると、一人での参加は難しく、サッカーから離れてしまう方もおられます。個人差はありますが、78歳ぐらいからの体力の低下が著しくなり、自信が持てないということもあるようです。

70歳以上の方たちのグラウンドの確保は、平日でいいので問題ではあまりないようですが、80歳以上の方の練習会への参加は問題を残しているようです。

10年前取材を始めたころは、まだ現在70代の方たちが現役世代でしたが、グラウンド等にも余裕があり、女性チームとの交流招待試合なども行われ、楽しむサッカーの部分も多かったように思います。JFAの2020年度は0-70サッカー大会も順位を決定するようです。現状を見ると、1つのチームでもチェンジもエンジョイもどちらも必要なのではないだろうか という意見が多いのかもしれない。

## 難しい障がい者スポーツの拡大



オリンピック、パラリンピックまであとわずかとなりました。パラリンピックでは、5人制サッカー＝ブラインドサッカーが8月末から行われます。ボールを使用する競技は、ゴールボール（視覚障がい者）、シッティングバレーボール、車いすテニス、車いすバスケットボール、車椅子ラグビーです。TVなどで取り上げられ紹介されたどのような競技はわかります。

車いすテニスは、下半身に障害のある選手、車いすバスケットボールは障害の程度により1.0点から0.5点刻みで4.5点まで持ち点でクラス分けされ、コート上の5選手の合計が14.0点以内に作るルール、車いすラグビーは足や腕などに障害のある選手でやはり障害の程度によってクラス分けされます。

障がい者サッカーは、以前にもご紹介した通り、アンプティサッカー（切断障がい）CPサッカー（脳性まひ）ソーシャルフットボール（精神障がい）知的障がい者サッカー、電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー（視覚障がい）、ろう者（デフ）サッカー（聴覚障がい）の7つの団体が日本障がい者サッカー連盟に属しています。JFAも2014年5月の「グラスルーツ宣言」のより、積極的に障がい者サッカーにもかかわるようになりました。

比較的私たちが知ることができるのは、ブラインドサッカーではないでしょうか。競技人口は450名ですが、国際大会への出場もあり、サポート企業も多くあります。大会へはマスコミの取材も多いです。ただ、その数ほど対外的に記事として発信することは少ないようです。

ここ3年間取材しています電動車椅子サッカーですが、競技人口は約500名、全国で39チームです。3年間取材したのは、電動車椅子の最高速度6km/hまでとする「日本電動車椅子サッカー選手権大会」と最高速度10km/hまでとする「日本パワーチェアフットボール選手権大会」です。昨年11月に行われました大会をご紹介

介しながら、障がい者スポーツの理解や支援の難しさを見ていきましょう。

毎回ご紹介していますが、電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。自立した歩行ができないなど比較的重度の障害を持った選手が多く、ジョイスティック型のコントローラーを手や顎などで操りプレーします。性別による区分はなく、男女混合のチーム（4名）で行います。といっても、なかなかイメージしにくいのがこの電動車椅子サッカーのようです。

自立して歩行ができないだけでなく、食事も一人では食べられない選手も多いようです。電動車いすの使用をはじめスロープやトイレなどの施設の問題もあり、開催できる場所が限られています。一人の選手に最低2名の帯同者も必要で、遠距離からの参加も難しくなります。車いすも一人一人の障がいの状況に合わせて調節されますので、1台の金額も大きくなります。そういう意味でも、だれもが簡単に始められるものでもありません。

大会に参加している選手たちは、全国の仲間と1年に1度会えるのが楽しみという感じです。そういう意味から、どうしても閉鎖的な大会になりがちのような気がします。静岡新聞なども取材に入り、翌日記事で掲載されていますが、ブラインドサッカーほど取材陣も多くありません。電動車椅子サッカーのドキュメンタリー映画「蹴る」も全国で上映されているようです。初めて電動車いすを知るといふ人にも、サッカーが好きで、そのことに全身全霊をかけている選手の気持ちは伝わり、感動を呼びますが、電動車いすサッカーそのものに関しては、理解が今一つのようです。選手が上映会などに参加する機会もどうしても限られるようです。



どうしたらより多くの人たちに、障がい者サッカーを知ってもらえるか？そして支援をしてもらえるかは、なかなか困難な道のように思えます。

障がい者スポーツは、その選手を通して「生きること」そのものを問われるように思います。ただ、それに触れることができるのが報道番組を通しての場合が多いことは残念です。電動車いすの選手たちも、私たちと同じように喜び、生きているのですが。

## 2020年度の事業計画について

### 10年目を迎えての新しい方向として



「あさ風」を発行し始めて、10年が経とうとしています。誰一人読者のいないところから、現在では、NPO法人として3年目を迎え、理事7名、監事1名、正会員は25名、賛助会員及び寄付者は約150名、団体の会員は7団体で、メールによる情報配信は、ASKAZEから直接配信が約500名近くになりました。

設立当初から応援いただいた方をはじめ多くの皆さんのお力でここまで成長することができました。改めて、皆さまに深く御礼申し上げます。ありがとうございます！

ご支援いただいた方は、北海道から鹿児島まで、全国に広がりつつあります。ただ、現在のNPOの組織では、これが限界になりました。そこで2020年度からは、理事会、総会でご承認いただきましたように、**拡張路線は取らずに、ご支援いただいているみなさまを大事に情報発信等の事業を展開していこう**と思います。

①「あさ風」の発行は従来通り、メール配信とメールのない方へは印刷物の郵送。その他、大会や健康関連などの情報も同様に配信します。

②ホームページの更新、様々な大会の写真等の紹介。メールなどで紹介できなかった写真などを掲載します。

③草の根サッカーの地域での交流事業は、2020年度は千葉での取材を予定しています。

また、取材の方針を、草の根のサッカーを紹介するという基本に還り、オープン参加の大会の取材、支援チームや支援者の多いチームへの取材と紹介を通して支援していただく方たちへの事業を増やしていきます。**7月以降の予定として、上記のようなチームの試合（練習）の様子をドローンで撮影して、そのデータをお渡しする計画です。（現在、準備段階です）**

#### ④一人一人のサッカー人生を大切に

従来通りピッチでのプレイ姿などの撮影、プリントし配布。支援者や支援チームが中心となります。サッカー歴のインタビューを「あさ風」に掲載。(できれば、85歳以上の方)

⑤あさ風の10周年記念行事は、新型コロナウイルスやオリンピックの関係で、来年度2021年に予定しています。

2021年度の予定事業として「サッカーの個人史」作成があります。このテスト版として、個人の写真の整理(データ化)個人の記録のデータ化を始めます。詳しくは「あさ風」4月号でお知らせいたします。

2019年度の決算はまだ出ませんが、事務所移転に伴う登記簿の変更で法務局とのやり取り上交通費が増えたこと(管理費)2019年2月時点で予算に組み入れていなかったホームページの作成費用、維持費が増えたこと、パソコンをウィンドウズ10に替えたため、編集ソフトを新しくしなくてはならなかったこと、予算に入っていなかった大会や行事が4つほど東日本であり交通費が増えたことなどで、赤字が予想されます。本年2020年度はできるだけ、予算外の取材等を減らして、健全な運営に戻していきたいと思えます。



## ご支援の寄付につきまして

あさ風は、みなさまのご寄付で運営されています。会員は

**☆正会員\*** 年2回の会員総会に参加して、予算と決算を承認。また、理事の交代や定款の変更などを審議します。全国組織ですので、一堂に会することはできませんので、書面による審議と事務所(長浜)に近い方たちで会議を開くこととなります。

**☆賛助会\*** 寄付者と同じなのですが、賛助会員の方が多ければ、NPOの収入が安定し、運営も安定していきます。

正会員・賛助会員のみみなさまへは、メール配信のかたにも年に2回のカード郵送、2回のお知らせの送付もしますので、最低300円の経費を使用しています。また、広告宣伝用に「あさ風」バック(400円)を配布させて頂いておりました。

今年度よりは、取材や写真撮影やドローンの撮影に多くの費用を使いたいと思残念ですが、バックは廃止させていただきます。若干残っておりますのでご入用の方は、早めにお知らせください。

**☆寄付者**は、固定して支援することには抵抗があるので自由に支援したいという方は、寄付者としてご支援ください。2000円以上のご寄付を頂いた方には、会員の皆様と同様の扱いとなります。

会費等の納入は4月より金融機関により振込料負担が増えることもありますので、3月よりお受けさせていただきます。また、初めて会員やご寄付頂けます方は、できるだけ郵便振替をご利用いただくか、ご住所、生年月日をメール等でお知らせください。名簿管理のためだけに使わせていただきます。

### 新しい「あさ風」の事業に向けてご支援をよろしくお願いいたします

NPO法人草の根サッカー支援あさ風は、皆様のご寄付によって活動が続けられます。事業は、各地の大会の取材(記事にしてメールや冊子で配信)、ホームページの運営、一人ひとりのサッカー人生を大切に(大会や練習時の写真を撮り、配布)等お友だち何人かで一緒に応援もOKです。寄付金は1000円から、会員は3000円/年

銀行口座 ☆三菱東京UFJ銀行 平塚支店 普通預金 0254137

NPO法人草の根サッカー支援 あさ風

☆ゆうちょ銀行 店名〇九八(ゼロキユウハチ) 店番098

普通預金 1291674 NPO法人草の根サッカー支援あさ風

郵便振替 00290-0-103773 NPO法人草の根サッカー支援あさ風

発行月 2020年  
3月08日

発行  
NPO法人草の根サ  
ッカー支援 あさ風  
〒526-0023

滋賀県長浜市三矢町  
9-13

古矢真知子気付

TEL: 0749-53-2154